

平成24年度 学内教育GPプログラム事業経費計画書（萌芽型）

学 長 殿

申請者（プログラム代表者名）

氏 名 最上善広 印

（部局長等の承認）

私は下記の申請について了承します

人間文化創成科学研究科長 石口 彰 印

理学専攻長 椎尾一郎 印

ライフサイエンス専攻長 松浦悦子 印

理学部長 最上善広 印

事業名称	「先生は理学博士」プロジェクト
取組代表者名 担当者名	* 事業担当者は全員記入してください。 代表者：最上善広， 事業担当者：菅本品夫 千葉和義 服田昌之 加藤美砂子 由良 敬
事業内容	* 事業内容については、大学全体の波及効果や支援期間後の見通しも含め、具体的に記入してください。なお、計画書の他に、事業の概要説明図（A4で1枚程度）を添付願います。計画書は適宜広げて（本用紙を含め2枚以内）記入してください。 最近のアカデミックポストの激減は、博士課程在学者のキャリアパスを狭め、博士前期課程学生の進学への意欲を後退させ、更には進学後の博士後期課程学生の研究意欲の低下をも引き起こしている。アカデミックポスト以外での活躍の場を開拓するためのインターンシップ制度の導入など、多くの試みがなされているが、もともと、企業との繋がりが密ではなかった本学にとっては、苦戦が予想される。 一方、お茶の水女子大学がこれまで築き上げてきた学術資産とブランド力を発揮できる分野として、教員養成が挙げられる。優れた教員を輩出する大学として、社会から認識されていることに加え、本学出身者は教育現場において一目置かれる存在であるという。老舗の看板は輝きを失ってはいない。 高度に専門化された科学技術に支えられている現代社会では、科学知識（技術）の社会への浸透を仲介する人材が望まれる。震災とその後の原発事故を目の当たりにして、その要望は更に強固なものになりつつある。 いわゆるサイエンスコミュニケーターを育成し、社会に送り出すことは、学問の府である大学に要求された大きな使命である。しかし、サイエンスコミュニケーターという職業に対する社会の認識は高いとは言えず、その活躍する場も限られている。一方で、小中高校の理科の先生は、一般にもっとも身近な科学の伝達者であり、信頼性の高い情報発信を要求される立場にある。理科の先生は、サイエンスコミュニケーションの最前線での活

	<p>躍が期待されている。</p> <p>これらの状況を踏まえ、生徒に尊敬される（憧れられる）高度な専門知識を持ち、理系への関心を引き出すことのできる教師として、博士課程において十分な知識と経験を蓄積した学生を送り出すためのプログラムを提案する。そこでは、博士課程の入口及び出口戦略として、教員志望者の博士課程進学をサポートするとともに、大学院生への教職課程教育の機会を確保し、教員へのキャリアパスを提示する。併せて、本学出身者のネットワークをもとに、教員としての就業情報を発信し、就職先を斡旋できる制度を構築する。</p> <p>プログラムのアクション・アイテムは以下の通り。</p> <p>1. 大学院生向けの教職科目の設置</p> <p>高度科学知識を生かすためのキャリア意識の育成を目指した、プラス・アルファの教職カリキュラムを構築する。既存の大学院科目を用い、中学高校における実習コンテンツの開発能力育成を旨とした科目の設置に向けた準備を行う（必要に応じて、サイエンス&エデュケーションセンター等に協力を求める）。</p> <p>2. 実践的教育力の確保</p> <p>a. 大学発 SPP（サイエンス・パートナーシップ・プログラム）を実施し、そこでの実践授業を通じて経験を積む。これまで、理学部の教員を中心に行ってきた SPP 授業の資産を活用し、大学発のプログラムを準備し（これまでは、中・高の先生達が計画することがほとんどであった）、大学院生を講師とした授業を行う。それを通して、高度科学知識を生かすための実践的教育力を養う。</p> <p>b. 教職科目の理系実習科目の TA を経験することで、学校教育に活かせる理系基礎実習遂行スキルの向上を図る。</p> <p>c. サイエンスライティング・サイエンスプレゼンテーション・サイエンスディベート科目の補助をすることで、科学分野の情報発信能力とコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>3. 教員志望を奨励するための施策</p> <p>教員を志望する学生に特化した奨学金制度を充実させるとともに、同窓会組織等を通じての就職情報網を構築し、就職情報を発信し（OG 向けも含む）、キャリアパスを明確に提示する。</p>
積算内訳	<p>1件、50万円以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師 ・アカデミック・アシスタント：20万円 ・旅費 ・謝金：30万円 ・消耗品

【問合せ先】

教務チーム 千葉（内線 5738）

E-mail: TL-kyoumu@cc.ocha.ac.jp